

台湾に二段位生まれる

令和7年度の台湾交流訪問は、11月28日から12月1日の4日間の日程で、全麵協からは9人が参加して実施しましたが、内容的には、11月29日の「段位認定会」及び翌日の「ミニそば祭り」でした。

先ず段位認定会ですが、二林鎮蕎麦道場で実施され、5台の打台に受験生が並び、審査は訪問団の3人が全麵協基準(制限時間のみ50分)で審査するスタイルです。今回の審査員は、諏訪5段(審査委員長)、屋成5段(審査員)、岡部4段(審査員)でした。

最初に、初段を実施。1組4人、2組4人の計8名の受験者は、いずれも時間内に麵にできて、全員合格しました。その後、2段2組が実施され、計9名が受験し7名が合格(合格率78%)しました。

日本と異なり、私どもの指導機会が3か月に1回程度と限られる中、初心者たちが相互研修する中で、ここまで到達するのは彼らの努力の結果だと高く評価しました。

しかし、3段ともなると簡単には到達困難であり、今後については現地とも協議し、3段以上の1.5キロの1.2キロへの緩和や、訪問指導の強化に加えて、受験候補者が日本に来て合宿強化練習することも考えたいと思っています。

いずれにしても、来年の3段認定会実施は確実な見込みです。

なお、各組の終了が、制限時間より早く終わったことで、初段と 2 段のデモ打ちを追加しました。高田 5 段と佐藤 4 段の見事な蕎麦打ちに受験生達はしきりに感心していました。

翌日のミニそば祭りは、香田小学校の実習室で行われ、訪問団が 3 台の打台で交代して打ち、現地の種講師達が茹で、盛りつけた『蕎麦定食』を約 100 人の申込者達に食べてもらうイベントで、早い時間から続々と人が集まりました。

打っていても香り豊かな二林鎮の蕎麦粉は、腕達者な訪問団メンバーの手により食べても美味しい蕎麦になりますが、今回は茹でたてをたべるという企画ですから、確実に台湾の人達の舌を魅了しました。

そのために、終始、訪問メンバーの蕎麦打ちには見学する人達の輪が切れません。大盛況でした。

認定会の晩は先方の主催で交流会を実施してもらい、また移動に要したマイクロバスの費用も負担していただきました。先方の熱い思いと好意に感謝しています。その結果、今回の訪問費用は往復の航空賃を含めて 1 人 10 万円程度で収まりました。

(台湾交流窓口担当 山本 剛)